

戦略2 幸せに歳を重ねられる暮らしをとどける

計画期間 令和6年度～令和10年度

主管部局 健康福祉部 関係部局 企画政策部

【戦略実現に向けた施策の方向性】

- 市民一人ひとりの健康意識を高め、健康診査・がん検診等の受診率の向上や、食生活・運動習慣の改善などを通じて、健康寿命の延伸に取り組めます。
- 一人ひとりの生涯やライフステージに応じた健康づくりを推進します。
- 江別版「生涯活躍のまち構想」に基づき、多様な主体が生涯にわたって安心して生活できる共生のまちづくりをより一層推進します。

【戦略を構成する具体的施策の事業費推移】

名 称	決算額									
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
(1) 健康増進活動の推進	9,301	千円	7,808	千円		千円		千円		千円
(2) 疾病予防・重症化予防の促進	165,487	千円	166,716	千円		千円		千円		千円
(3) 多様性を認め合う社会意識の醸成	6,875	千円	6,741	千円		千円		千円		千円
計	181,663	千円	181,265	千円		千円		千円		千円

戦略実現に向けての数値目標**◆数値目標（1） 健康だと思える市民割合（単位：％）**

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目 標
78.4	81.7	80.0				85.0

◆数値目標（2） 健康を維持するために心掛けていることがある市民割合（単位：％）

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目 標
89.2	87.0	85.1				92.0

◆数値目標（3） 日頃の生活の中で地域の人との交流がある市民割合（単位：％）

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目 標
20.9	21.6	23.1				40.0

具体的施策 (1) 健康増進活動の推進

健康寿命を延ばし、いつまでも健康で元気なまちを目指して、全ての人が健康的な生活を送ることができるよう、個人のみならず、地域や職域などと連携し、「こころ」と「からだ」の健康づくりを行うための普及活動や環境づくりを推進します。

◆重要業績評価指標 (KPI) 健康づくり事業への参加者数 (単位：人)

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目標
4,182	5,628	5,450				10,000

■成果動向 (令和7年度の評価)

令和7年度は「えべつ市民健康づくりプラン」「江別市自殺対策計画」に基づき各種取組を推進しました。子どもの頃からの望ましい生活習慣の確立に向け、小中学校における喫煙予防や生活習慣病予防教室の開催を継続したほか、乳幼児健診の機会を活用し保護者の血圧測定や野菜摂取レベル測定を行うことで働き世代への啓発を強化しました。また、健康づくり推進員等による地域に根差した健康づくり事業の開催、ゲートキーパー養成講座や心の健康づくり講演会など、こころと体の健康づくり活動を推進しました。これらの取組により一定の成果を維持しています。

市民の健康づくりへの意識向上を図るため、イベント「健康フェスタ」を開催しました。また、野菜摂取の推進に向けては、野菜摂取レベル測定器を活用した効果的な啓発活動を展開するとともに、関係機関との連携による啓発に努めました。

■改善案 (次年度へ向けた展開・課題・推進の方向性)

令和7年度の取組を通して一定の成果を維持しているものの、40～50歳代の働き世代の参加は依然として少なく、高齢者においては高齢者クラブなどの集まる機会が少なくなっているなどの課題もあり、各世代への効果的な情報伝達や健康づくりの機会の確保に向け工夫が必要と考えています。そのため、従来の参加型の事業を継続しながら、より参加しやすい方法の検討を進めつつ、SNS等の活用など効果的な情報発信のあり方についても情報収集を重ねることで、広く健康知識の普及と市民の健康意識の向上に努めます。

野菜摂取のさらなる推進に向けて、引き続き野菜摂取レベル測定器を活用し、無関心層も含む幅広い市民の行動変容を促す効果的な啓発活動を展開します。

<課題>

- 子どもの頃から正しい生活習慣を身に付ける
- 自らの健康について関心を持つ市民の増加
- 運動などの健康づくりに取り組む市民の増加
- 食生活の改善に取り組む市民の増加
- 市民に不足している野菜摂取量の増加

<取組の概要>

- ・小学校での「喫煙予防教室」や、中学校での「生活習慣病予防教室」を開催
- ・E-リズムの普及啓発を通し、運動習慣の定着化を図る
- ・乳幼児健診での保護者への血圧測定等、生活習慣病予防に向けた啓発
- ・地域健康づくり推進員や食生活改善推進員等と連携協力し、地域の健康づくり活動を推進
- ・ゲートキーパー養成講座を開催するなど、心の健康づくりを推進
- ・様々な機会を通じた野菜摂取を促す働きかけ
- ・健康づくりに関する啓発イベントを開催

事務事業	成果指標	令和6年度	令和7年度	令和8年度	備考
健康づくり推進事業	こころや体の健康づくりに関する講座、教育、相談の参加人数	5,628 人	5,450 人		
	地域健康づくり推進員事業参加人数	943 人	919 人		
	事業費	8,154 千円	5,902 千円	千円	
健康都市推進事業	健康を維持するために心掛けていることがある市民割合	87.0 %	85.1 %		
	事業費	1,147 千円	1,906 千円	千円	

具体的施策 (2) 疾病予防・重症化予防の促進

食生活の改善や運動習慣の定着などにより、生活習慣病を予防するとともに、健康診査やがん検診等の推進により、疾病の早期発見や早期治療に結び付け、合併症や重症化の予防に努めます。また、先進的な予防医療の視点から健康増進の可能性を探ります。

◆重要業績評価指標 (KPI) 過去1年間にがん検診を受けた市民割合 (単位: %)

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目標
36.9	35.9	36.1				45.0

■成果動向 (令和7年度の評価)

各種健(検)診では、健(検)診機会の確保に努め、「江別けんしんだより」や受診勧奨資材を工夫し、わかりやすい周知に努めました。これら啓発の工夫もあり、特定健診受診率では伸びが認められましたが、がん検診では受診率がやや低下しました。また、健(検)診受診後の適切な医療受診や正しい生活習慣の実践につなげるため、対象者への訪問などによる特定保健指導を強化しました。

一般介護予防事業については、通いの場の立ち上げ支援や活動再開支援を行うことで、通いの場における専門職講話の受講人数の増加につながりました。

高齢者保健・介護予防一体的実施事業では、専門職派遣による健康教育の講話テーマをニーズに合わせて見直したことにより、実施延人数が増加しました。

■改善案 (次年度へ向けた展開・課題・推進の方向性)

健(検)診受診率の向上に向け、周知媒体の見直し、未受診者への受診勧奨を継続することで少しずつ効果がみられていますが、国や道と比較すると受診率が低いことが課題です。今後は、これまでの取組を基本としつつ、それぞれの世代が受診しやすい環境づくりや、検診の大切さが届くような啓発についても検討を進め、さらなる受診率の向上に努めます。

介護予防の中でも認知症予防への関心が高いことから、認知症予防に特化した教室や講話を開催し、認知症予防を含めた介護予防の取組の必要性について広めます。

<課題>

- 特定健診受診率・特定保健指導利用率の向上
- がん検診受診率の向上
- 運動や社会参加による介護予防の推進

<取組の概要>

- ・節目年齢受診無料等のインセンティブの提供や、電話・訪問等による受診勧奨を実施
- ・健(検)診を受診しやすい環境の整備
- ・住民が主体的に集まる通いの場を活用した介護予防・疾病予防講話の実施
- ・高齢者の保健と介護予防を一体的に実施

事務事業	成果指標	令和6年度	令和7年度	令和8年度	備考
成人検診推進事業	がん検診平均受診率	13.7 %	13.4 %		
	事業費	86,003 千円	86,018 千円	千円	
特定健康診査等事業	特定健診受診率	28.9 %	29.5 %		
	特定保健指導利用率	44.2 %	43.6 %		
	事業費	67,985 千円	68,971 千円	千円	
一般介護予防事業	介護予防出前講話の受講人数	1,105 人	965 人		
	通いの場等での専門職講話の受講人数	153 人	204 人		
	事業費	4,806 千円	4,583 千円	千円	
高齢者保健・介護予防一体的実施推進事業	専門職派遣による健康教育・相談延べ人数	655 人	800 人		
	重症化予防等の個別支援実施人数	351 人	374 人		
	事業費	6,693 千円	7,144 千円	千円	

具体的施策 (3) 多様性を認め合う社会意識の醸成

性別、年齢、国籍、文化の違い、障がいの有無などに関わらず、多様な主体が交流し、誰もが自分らしく、いきいきと暮らすことができる、共生のまちづくりを進めます。

◆重要業績評価指標 (KPI) 性別や年齢、国籍などが異なる人への「壁」をなくすべきだと思う市民割合 (単位：%)

現状値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	目標
79.7	70.2	67.5				85.0

■成果動向 (令和7年度の評価)

江別版「生涯活躍のまち」構想に基づき、年齢や障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「共生のまち」を目指し、地域や大学等と連携した取組を進めました。

■改善案 (次年度へ向けた展開・課題・推進の方向性)

江別版「生涯活躍のまち」構想の実現に向け、拠点地域「ココルクえべつ」を中心に、地域や大学等と連携した取組等を進め、多様な主体が交流することなどにより生涯にわたって安心して生活できる共生のまちづくりを推進します。

<課題>

- 性別や年齢、国籍、文化の違い、障がいの有無などの多様性を認め合う社会意識の醸成
- 生涯活躍のまちの認知度向上と拠点地域内外の多世代や障がい者など多様な主体による交流の創出

<取組の概要>

- ・共生のまちづくりに関連する部署の連携による意識啓発
- ・地域住民の国際理解や在住外国人にとって住みやすいまちづくりの推進
- ・生涯活躍のまち拠点地域の市民周知と来訪者増に向けた交流事業等の推進

事務事業	成果指標	令和6年度	令和7年度	令和8年度	備考
生涯活躍のまち推進事業	「生涯活躍のまち推進事業」拠点地域を訪れた人数	113,675 人	123,889 人		
	事業費	6,875 千円	6,741 千円	千円	